

# 【平成 30・31 年度鳥取県協働提案・連携推進事業 成果報告】 県民の手による鳥取コナン空港魅力化事業

## 1. 【NPO 等】事業実施団体

### 空の駅オヤジの会（鳥取市）

- ・鳥取空港を県の表玄関にふさわしい賑わいの拠点として活性化させ、あわせて県東中部、但馬地域の振興を目的に、各地からの壮年有志で組織し、行政や関係機関に提言や働きかけを行う団体。

## 2. 【行政】県協働担当課

### 空港港湾課

- ・地域経済・産業発展を支える基盤整備のため、県内港湾・漁港・海岸のほか、鳥取空港及び米子空港の適切な運営、計画的な維持管理、利用促進を担当する部署。

なお、H30年度からは、特に「鳥取砂丘コナン空港」と「鳥取港」が連携し、両港エリア一帯を県東中部・但馬地方の観光・交流・情報の玄関口となることを目指し、ツインポートとして消費拡大と地域経済循環の加速化を図るため、空港及び港の情報発信やPR事業、施設の機能強化を目指している。

### 観光戦略課

- ・鳥取県の観光振興を担当する部署。地域及び経済の活性化を図るため、自然・歴史・文化などの観光資源の掘り起こし・磨き上げや、訪れる人々を温かく迎える意識の醸成など、本県の観光魅力の向上を図るとともに、県外からの観光客誘致に努めている。

### <その他関係機関>

### 鳥取空港ビル株式会社

- ・平成30年7月1日より、鳥取空港の管理運営にコンセッション方式が導入され、空港の運営権について鳥取県から移管を受けている団体。

## 3. 課題及び目的

鳥取空港は、羽田便の5往復化や愛称化（「鳥取砂丘コナン空港」）を機に利用者が増加しているものの、国際定期便の就航を見込んで整備した国際会館の活用が進まないなど、搭乗者だけが利用する交通施設で賑わいが見られなかった。

そこで、「鳥取砂丘コナン空港」の空港ビル一体化工事が完成し、平成30年7月からグランドオープンするに当たり、県民の手でハード、ソフトの両面から同空港のあり方を提言し、同空港を飛行機に乗るだけの交通施設から、飛行機に搭乗しなくても行ってみたいくなる魅力ある空の玄関口とすることで、鳥取県の観光立県化の柱とすることを目的とした。

## 4. 課題解決の手法

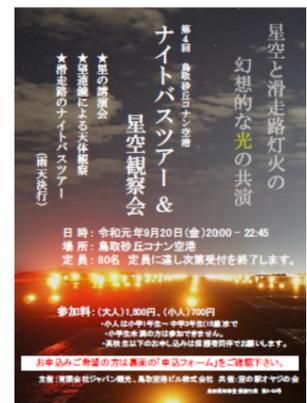
### (1) 滑走路を活用した星空観察会

過去に事例の少ない夜間の滑走路を利用したイベントを開催。夜間の滑走路航空灯火の見学のほか、専門家による「星座」や「星空観察」に関する講演会、屋上デッキから望遠鏡を使用した星空観察等を実施。滑走路ナイトバスツアーとして、観光イベントとしての効果を期待。

### (2) 東京藝術大学とのコラボレーションイベント

国内で最も歴史があり、数多くの傑出した芸術家を輩出している東京藝術大学と連携し、空港ターミナル内でオペラのコンサート及びワークショップや、サクソ奏者による中高校生への演奏指導を開催。

従来にはない新たな空港ターミナルビルの活用策を創出し、また県内の中高校生に本物の音楽に触れる機会を提供できたことで、文化芸術の人材育成にもつながる取組となった。



### (3) ビーチサッカー全国大会の支援

空港の魅力化のためには、空港施設単体ではなく、空港が立地する賀露・湖山エリア一体の地域ぐるみの取組が不可欠である。全国で14回目の開催となる全日本ビーチサッカー大会の開催に当たり、大会関係者や選手の空港到着時の歓迎セレモニーや看板設置、パンフレットの配布等について企画立案した。

## 5. 主な役割分担

### 【事業実施団体】

- ・ 事業全体の企画立案、運営主体

### 【行政】

- ・ 各イベント実施における協力・後方支援、関係機関との調整など

### 【鳥取空港ビル株式会社】

- ・ 主に星空観察会、東京藝大ワークショップなど空港施設におけるイベント運営などを担当

## 6. 成果

### ・ 滑走路を活用した星空観察会

実証実験を含め、計4回実施。雨天により星空観察が困難な日もあったが、日頃立ち入ることのできない滑走路の誘導灯点滅を間近で見学した参加者の満足度は高く、非常に感動したとの声が多く聞かれた。

平成30年8月18日…参加80名（実証実験）

〃 11月23日…参加46名（〃）

令和元年5月31日…参加80名

令和元年9月20日…参加50名



### ・ 東京藝術大学とのコラボイベント

計2回実施。

令和元年8月5日…オペラ歌手山本耕平さん（米子市出身）

による歌唱指導及びジョイントコンサート。県合唱コンクール直前のためあいにく中高生の参加はなかったものの、市民コーラス部や地元住民など約100名が参加。大変盛況であったとともに、会場であるコナンホールは、オペラをはじめとして演奏会に向いているとの新たな気付きもあった。



〃 12月21日…サクソ奏者竹田歌穂さん（鳥取出身）

を含め計4名の東京藝大OBサクソカルテットによる演奏指導。県教育委員会による尽力もあり、県内中高吹奏学部から65名参加。



### ・ ビーチサッカー全国大会の支援

県サッカー協会との調整が整わず、当初計画していた大会自体の支援活動には至らなかったものの、令和2年9月1日に約30名参加し、会場となる砂浜の清掃活動を実施した。



## 7. 事業終了後の状況

### (1) 滑走路を活用した星空観察会

鳥取空港ビル株式会社が事業主体となり継続予定。

国内空港で唯一の滑走路使用が定着し、今後は県外・海外からの誘客や、県所有のプラネタリウムの活用を目指し、鳥取空港ビル株式会社の収益事業としての発展を期待。また、イベントのクオリティを高め、よりエンターテインメント性を強めた有料イベントとしての開催を検討したい。

### (2) 東京藝術大学とのコラボイベント

鳥取県教育委員会に事業を引き継ぎ、引き続き空港イベントとして継続予定。

令和元年度の取組により、県内学生が貴重なプロの指導を受けられるチャンスイベントとしての見通しがついたため、今後は音楽のみならず、絵画、デザイン、映像などの分野とのコラボレーションを検討したい。

### (3) かっこいい空港ロード沿線の活性化事業

現地視察、調査、情報収集等を行い、引き続きロード沿線の活性化策を提言していきたい。